麦情報(10月号)

令和9年産　シュンライは、適期に播種を行いましょう

令和8(2026)年 10月30日
上都賀農業振興事務所



麦作は基本技術の徹底が収量・品質向上に大きく影響します！
①土づくり、②適期播種、③排水対策、④麦踏み が重要です！

【関東甲信地方の3か月予報】(2026年10月20日気象庁発表)
○　11月～1月は、平年より気温は高く、降水量は多くなる確率が高い。

気温、降水量の各階級の確率（%）					
気温	関東甲信地方	11月～01月	10	30	60
		11月	10	30	60
		12月	20	30	50
		01月	20	30	50
降水量	関東甲信地方	11月～01月	20	30	50
		11月	20	30	50
		12月	20	30	50
		01月	20	30	50

低い(少ない)　平年並　高い(多い)

1　土づくり・施肥は適正に！

麦類は酸性に弱い作物です(図2)。土壌 pH が 6.0 未満になると、生育不良となり、大幅に減収します。

(1) 播種前に、pH6.0～6.5 を目標に、苦土炭カルを施用しましょう。
(標準施用量:60～100kg/10a)

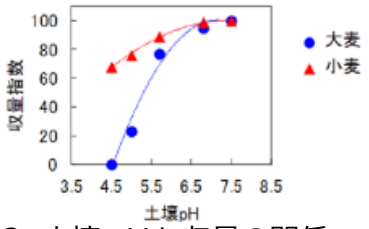


図2　土壌 pH と収量の関係

(2) 施肥は、窒素成分で6～7kg／10a を目安にしましょう。
(例:BB シュンライ 242:50～60kg/10a)
前作が大豆の場合は、5割程度減肥します。

2　適期に播種！

(1) 播種時期は、11/6～11/20 を目安にしましょう。
気象庁発表の3か月予報では、11月の気温は高くなる予想です。(図1)。初期生育を確保するために適期播種を行い、極端に遅い播種は避けましょう(播種時期による影響:表2)。

(2) 播種量は 7kg／10a(ドリル播き)とし、播種時期が遅れる場合は、播種量を増やしましょう。

表2　播種時期が生育に及ぼす影響

適期より早い場合の影響	適期より遅い場合の影響
・縞萎縮病に感染しやすい ・春先に凍霜害を受けやすい ・過繁茂で茎数が多くなり、無効分げつも増加する ・側面裂皮粒等の被害粒が発生しやすい ・1穂粒数が少なくなる ・登熟歩合が低く、容積重が軽くなる	・霜柱や凍結層による凍上害のリスクが増える ・分げつ数が少なくなるため、穂数が少なくなる ・赤かび病が発生しやすい ・タンパク質含量が増加する ・硝子粒率が増加する ・収穫時期に梅雨に当たるため、降雨による品質低下のリスクが増加

3　排水対策も万全に！

麦は湿害に弱い作物です。近年、一度に降る雨量が多くなり、湿害を受けやすくなっています。

基本の排水対策を実施しましょう。

①地表排水（明きょ設置）

②浸透排水（プラソイラ等による心土破砕：図3）

設置した明きょは、必ずほ場外の排水路とつなぎ、ほ場内の水はけを良くしましょう（図4）。



図3　プラソイラによる心土破砕

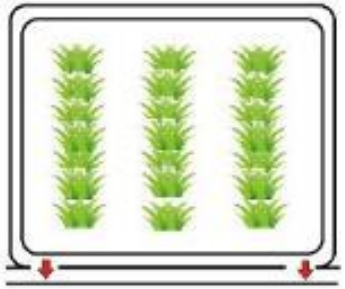


図4　明きょと排水路



図5　明きょの有無が排水性を分ける

4　麦踏みは2．5葉期から開始する！

麦踏みは、分げつを促進するだけでなく、霜柱による根上がりを防ぎ、寒さに強い麦を育てます。生育状況や気温等を考慮して必ず実施しましょう。

麦が2．5葉期を過ぎれば、麦踏みができるようになります（図6）。

生育とほ場の状態を見ながら、年内 1～2 回、年明け後から茎立期（幼稚の長さが2cm）の直前までに2回実施しましょう。

【注意点】以下の条件では、逆効果になるので注意が必要です。

①土壌水分が高いときは、土を締めすぎて固くしてしまい、根の生育を阻害する。

②凍結層のある時期（例年1～2月頃）は、踏むことで根を直接傷めるおそれがある。



図6　大麦の本葉2．5葉期
（第3葉の長さが第2葉の長さの半分程度の時期）



農作業は安全第一！

・農道から傾斜があるほ場では、無理な通行は避ける。
・作業機の異物除去や点検・確認、種子・肥料の補給はエンジンを止めて行う。
・単独作業を避ける。（緊急時に連絡が取れるように）